

オビボソカニグモ *Xysticus trizonatus* Ono

【選定理由】

樹皮のすき間から単独個体が散発的に記録される。もともと個体数は少ないと思われる。生息木の伐採による減少が心配される。

【形態】

体長雌 7～8mm、雄 5～6mm。雌の頭胸部は淡褐色で、両側に黒色の縦斑がある。雄は一様に黒色。腹部は茶褐色で、数本の横縞と多数の白色斑がある。*Xysticus* 属ではこのような模様は本種だけである。



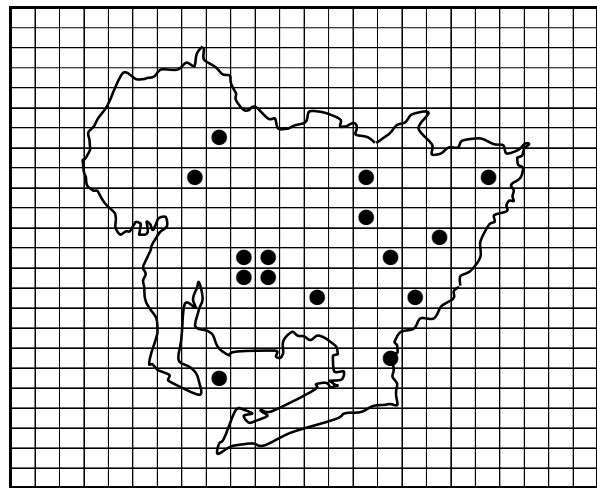
岡崎市池金町, 2017年5月13日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

名古屋市、岡崎市（旧岡崎市・旧額田町）・豊田市（旧足助町・旧下山村）、安城市、西尾市（旧一色町）、北設楽郡豊根村、北設楽郡設楽町で記録されている。

国内では、北海道、本州、四国、九州に分布する（新海ほか, 2018）。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

徘徊性で樹幹の隙間や、地表の落葉中に生息する。松のコモ巻きからも発見される（緒方, 2005）。

【現在の生息状況／減少の要因】

もともと個体数は少ない。松のコモ巻きからも、越冬個体が稀に発見される。

【保全上の留意点】

生息木の伐採は中止すべきである。コモ巻きは越冬する害虫退治を目的とするものだが、害虫駆除に一役買っているクモ類も越冬している。焼却される前に、害虫と益虫を選り分けることが望まれる。

【引用文献】

緒方清人, 2005. 3 松のコモ巻きに観られるクモ類の比較から. 新編安城市史 11 自然 本文編 動物, pp.591-595. 安城市.
新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.163. 文一総合出版, 東京.
小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, pp.515,635. 東海大学出版会, 神奈川.
小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.373,568. 東海大学出版会部, 神奈川.

(緒方清人)